

※新聞記事のレイアウトを変更しております。



【質問】 診療報酬の改定で、抗菌薬適正使用を評価する点数が新設されたと聞きました。が、どういうことでしょうか。
(31歳、女性)

抗菌薬適正使用

【回答】 細菌、ウイルス、真菌（カビ）などの小さな生物をまとめて微生物と呼びます。それぞれの微生物にはそれにしか効かない薬があります。細菌に効く薬を抗菌薬あるいは抗生剤、ウイルスに効く薬を抗ウイルス薬といえます。

抗菌薬はウイルス感染には効きませんし、全ての細菌に効くわけではなく、ある特定の細菌にしか効きません。漠然と抗菌薬を使用することで、細菌の抵抗力が強まり、抗菌薬が効かない

薬剤耐性菌増加の対策

症状改善しなければ再診を

不適切な抗菌薬使用による薬剤耐性菌の増加が国際的課題となっており、わが

国でも2016年に「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」が策定されるなど、抗菌薬適正使用の取り組みが推進されてきました。

い細菌（薬剤耐性菌）へと変化したり、普段は感染力が弱い細菌（弱毒菌）が増殖したりします。高齢者や幼児などの細菌に対する抵抗力が弱い人では、弱毒菌でも感染を起したり、抗菌薬を投与してもなかなか治らず重症化したり死に至る場合もあります。

こうした流れを受け、本年度診療報酬改定では、「小児抗菌薬適正使用支援加算」が新設されました。小

児科外来での抗菌薬適正使用を評価する点数として、小児科専任の医師が、急性下気道感染症または急性下痢症で受診した初診患者（保護者）に対し、検査結果などを基に抗菌薬を処方しない理由を説明し、内容を文書で提供した場合に算

開始した後の症状の変化をきちんと見極めることが大切で、「いつもと違い元気がない」「38度以上の高い熱が何日も続く」「せきや鼻水が続く」といったときは、必ず最初にかかった医療機関を受診し、再度診察を受けてください。その上で、細菌感染があると判断した場合は適正な抗菌薬が使用されることとなります。

今から風邪が流行してきます。抗菌薬の使用を減らすためにも風邪にかからないことと重症化を防止することが大切です。手洗いとうがいの励行、風邪をひいたと思った時は不要な外出を避けてください。そして、重症化しやすいインフルエンザの予防のためワクチンの予防接種を受けてください。

(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。